

「京丹後市史資料編」の刊行にあたり 「記念シンポジウム」を開催

平成 22 年 3 月 19 日

京丹後市・京丹後市教育委員会

市には、先人の残した多数の文化財があります。京丹後市教育委員会では、これらの資料を「京丹後市史」としてまとめる市史編さん事業を平成 17 年度から 26 年度までの 10 か年計画で進めています。

その最初の成果となります「京丹後市の考古資料」の刊行にあたり、「刊行記念シンポジウム」を開催します。

「京丹後市の考古資料」は、シンポジウム当日から会場にて販売するほか、各市民局・地域公民館においてもご購入いただけます。

シンポジウムの目的

- 京丹後市史資料編の第 1 冊目として「京丹後市の考古資料」を刊行されたことを記念して開催します。あわせて、この日から販売を始めます。

シンポジウムの日時・会場

- 平成 22 年 3 月 22 日（月） 午後 1 時 30 分～4 時 30 分
- アグリセンター大宮 多目的ホール
- ※入場無料、事前申し込みの必要なし

シンポジウムの講師

- 京丹後市史編さん委員としてお世話になった大阪大学の福永伸哉教授をはじめ、考古専門部会でお世話になった広島大学の野島永准教授、大阪大学の高橋照彦准教授、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターの肥後弘幸課長にお願いしています。

シンポジウムの内容

- 福永伸哉教授から、「交易と技術の国、古代京丹後」という演題で、弥生時代から古墳時代を中心に考古資料から見た京丹後市の歴史を概観していただき、その隆盛の背後を基調講演いただきます。
- その後、高橋照彦准教授・野島永准教授・肥後弘幸課長により、縄文時代から中世にかけての考古資料から見た京丹後市の歴史について、リレート

ークを行っていただきます。

◇13：00 開場

◇13：30 開会あいさつ

◇13：45 講演「交易と技術の国、古代京丹後」

福永伸哉教授（大阪大学）

◇14：45 休憩（10分）

◇14：55 リレートーク「京丹後市史はこう読む」

福永伸哉教授（大阪大学）

高橋照彦准教授（大阪大学）

野島 永准教授（広島大学）

肥後弘幸課長

（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

◇16：30 閉会あいさつ

京丹後市史資料編「京丹後市の考古資料」の内容

- 巻頭図版（カラー）32 ページのほか、単色（一部三色刷り）404 ページの構成
- 第1章から第7章の構成
- 第1章は、考古資料から見た各時代の京丹後市の歴史を概観するものです。
- 第2章から第5章は、市内の河川流域ごとに、これまでに発掘調査された考古資料を紹介するものです。また、各章ごとに地図を掲載しています。
- 第6章は、第2～5章を補完するものとして、銅鏡・墨書土器などの資料集成を行ったものです。
- 第7章は、江戸時代から現代までの考古資料に関する研究史をまとめています。
- 巻末には、より内容を深めていただくために、文献一覧を掲載しています。
- 「京丹後市の考古資料」は、これまでに発掘調査された考古資料をから見た京丹後市の歴史について、コンパクトにまとめたものとなっています。

「京丹後市史」考古資料編の販売

- 1冊 2,000円で販売

◇シンポジウム当日より会場にて販売します。

◇シンポジウム終了後は、文化財保護課（大宮庁舎内）のほか、各市民局・地域公民館にても販売します。

文化財保護課 TEL69-0640

講師プロフィール

福永伸哉先生 大阪大学大学院文学研究科教授

大阪大学文学部史学科、同大学院文学研究科に学ぶ。大阪大学埋蔵文化財調査室助手、文学研究科助教授をへて、2005年より現職。ここ数年は古墳時代政治史を東アジアの歴史動向の中で再構築することをめざす。国内各地の遺跡の発掘調査を実施しているほか、1991年よりトルコ共和国地中海岸の中世都市遺跡の発掘調査に継続的に携わっている。1996年第6回雄山閣考古学特別賞、2003年大阪大学共通教育賞、2006年第19回濱田青陵賞。主な著書『三角縁神獣鏡の研究』『邪馬台国から大和政権へ』大阪大学出版会など。

高橋照彦先生 大阪大学大学院文学研究科准教授

京都大学大学院文学研究科博士後期課程中退。国立歴史民俗博物館、奈良国立博物館の勤務を経て、2002～2007年大阪大学大学院文学研究科助教授。2007年より現職。日本考古学のうち、奈良・平安時代を中心に研究。特に、日本古代の焼き物である三彩・緑釉陶器を通して、奈良・平安時代の文化や社会を明らかにしていこうとしている。その他にも、例えば銭貨についても研究に取り組んでおり、分析化学の研究者とともに共同研究を進行中。共著に『列島の古代史5』岩波書店、『大化改新と古代国家誕生』新人物往来社、『国宝の美01』朝日新聞社など。

野島^{ひさし}永先生准教授 広島大学大学院文学研究科

1990年広島大学大学院文学研究科博士課程前期考古学専攻修了、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター勤務を経て、広島大学大学院文学研究科助教授。2007年より現職。専門は日本列島における鉄器文化の考古学的研究。とくに弥生時代から古墳時代における鉄製品や鍛冶遺構の分析を通じて、日本列島における鉄器文化の独自の発展の様相の解明を目指す。主な著作『初期国家形成過程の鉄器文化』雄山閣、「鉄からみた弥生・古墳時代の日本海交流」(『考古学からみた日本海沿岸の地域性と交流』富山大学人文学部考古学研究室)

肥後弘幸課長 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

大阪市立大学法学部卒。京都府教育庁指導部文化財保護課、京都府立山城郷土資料館を経て現職。大田南2号墳(弥栄町)の発掘調査等、京丹後市内での発掘調査を多く手がける。主な著書「丹後地域の弥生墓制」(『京都府埋蔵文化財論集2』)、「丹後の弥生王墓とその周辺」(『初期古墳と大和の考古学』)など。